

目標: イスラエルの捕囚・解放の歴史から、神は世代を超えて回復を与えることができる方なのだということを知る。  
 聖句: 「ペルシャ王クロスはこのように言う、天の神、主は地上の国々をことごとくわたしに下さって、主の宮をユダにあるエルサレムに建てることをわたしに命じられた。エズラ言  
 時間: 10分  
 道具: ホワイトボード、ペン、イスラエルの年表  
 対象者: 小6×1 小5×1 小4×1 小3×1 小3×3 小1×2 未就園児×5  
 留意点 聖書の光テキストではエズラが出てくるが、今回の対象者には込み入った印象が残ると思われるので、アプローチを変えて歴史を俯瞰させるようにしたい。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	私たちの神様は、何十年とか、何百年をかけて約束を果たすこともできる方です。		本時のイエス様との関連、前回との関連を最初に明示する。
課題探究	6分	<p>前回のエステルは、ユダの国が滅亡して、ユダヤ人がペルシャという国にも住むようになった中で起きた出来事でした。</p> <p>今日は、イエス様の生まれた国、イスラエルの歴史から、神様のみわざを学んでみたいと思います。</p> <p>イスラエルの最初の人是谁でしょう</p> <p>その後どんなことがありましたか。</p> <p>ダビデ王国は、二つの国に分かれ、それぞれ紀元前721年と586年に滅亡してしまいます。ダビデの子孫はそのうち586年の方のユダ王国に住んでいました。</p> <p>エステルはこの時バビロンに連れ去られた人たちの中で生活していた人です。</p> <p>連れ去られたことを、バビロン捕囚と言います。彼らユダヤ人はどう思ったと思いますか。50年くらいたつとどうなると思いますか。</p> <p>そのうえ、なんと70年たった時です。何が起きたと思いますか。</p> <p>捕囚をしたバビロン帝国が、一夜でなくなり、ペルシャという国にとって代わってしまったのです。本日の聖句は、そのペルシャのクロスという王がユダヤ人に出した命令なのです。</p> <p>70年かけて聞かれる願ひって、皆はどう思いますか。</p> <p>私たちの神様は、私たちの祈り願ひを、何十年経っても決して忘れない方です。</p> <p>神さまの真実さを、今までよりももっともって信じてほしいと思います。</p> <p>暗誦聖句</p>	<p>・アブラハム</p> <p>・アダム</p> <p>・悔しい</p> <p>・帰りたい。</p> <p>・帰りたい。</p> <p>・もういいか。</p> <p>・分からない。</p>	<p>アダムが出たら、今回は触れないことを伝える。アブラハムからの歴史を紐解いていく。</p> <p>子供たちに挙げさせていく。</p> <p>出エジプトとダビデ王国成立は重要なので、子供たちから出なければ教師側から提示する。</p> <p>説明にはなるが、イスラエルの重要な歴史なので、折ごとに触れるようにすべきと考える。</p> <p>721年、586年を、私は滅んだと聞いてナニイ!と言った、コノヤロウと滅ぼされた、と覚えた。面白いと思うのでこれを提示して覚えるよう促したい。</p> <p>前回とのつながりで、触れておいた方がよいと思う。</p> <p>ユダヤ人の心情を推察させたい。</p> <p>人の心情は現状追認になりがちであり、神様に信頼する心が薄れていく傾向を意識させたい。</p> <p>正解を求める必要はない。</p> <p>気持ちをこちらに向ける呼び水の発問。</p> <p>必要があれば、遺跡の跡が確かに急に滅亡した痕跡を残していることを伝える。</p> <p>目の前の子供たちが80歳くらいになって、今ここで祈った祈りが聴かれるということであると付け加えたい。</p> <p>時間に余裕があれば、イスラエルが1900年後に再建した話も触れたらいいと思う。</p> <p>183号テキスト全体のテーマからの反映として、この事柄を信じて取り組ませたい。</p> <p>今回の聖句は、趣旨が押さえてあれば暗誦の必要はない。</p>
まとめ	2分			

21:21